

大器晩成。フランクはこの言葉を思わせる作曲家です。少年時代のフランクはピアノの才能を發揮し、父親は息子をピアニストとして売り出そうとしました。しかしフランクは作曲家の道を選びます。オルガンの名手でもあったフランクは、教会のオルガニストを務めながら作曲を続けました。地味だけれども中身の詰まった音楽。彼の代表作の多くが60歳を過ぎてから書かれています。63歳の年に作曲された《交響的変奏曲》も、独奏ピアノが時には纖細に、時にはオルガンのように重厚に、オーケストラと一体となって味わい深い音楽を聴かせます。

遅れて花開いた滋味深い音楽

# セザール・フランク

César Franck (1822-1890)

B

2025 DECEMBER  
[第2052回]



オルガンを弾くフランク。

オルガンとピアノの名手だった彼の《交響的変奏曲》には、美しいピアノ独奏が盛り込まれています